

教えて！ドクター

加齢による眼病（緑内障）編 Vol.2

ゆっくりとしたペースで進行するため、
気づきにくい緑内障。
進行すると視野が狭くなる病気です。

日本人に多い正常眼圧緑内障

緑内障とは、眼圧が自分の目の許容範囲を超えることで視神経が障害され、視野が欠ける病気です。実際に視野障害が起きて、私たちは視線を動かして、両目で補い合っている物を見ている。そのため、自分では視野障害に気が付かないことが多いのです。また、視力を測っていても緑内障は発見できません。視力は緑内障末期まで良好に保たれていることが多いからです。

緑内障の原因のひとつに眼圧が関与しています。眼圧とは目の硬さ、眼球に一定の張りを与えて形を保つ圧力のことをいいます。目の中には、房水という水分があり、目の硬さを調節する役割をしています。1日に眼球内に房水が作られる量と眼球外に排出されるパランスがとれていれば、眼圧は一定です。房水が過剰に産出されたり、排出される部分が閉塞すると房水が目の中に溜まり、目が固くなり、眼圧が高い状態になります。つまり、無理やり空気を注入



医学博士 川久保 洋 先生

1959年生まれ。川久保眼科院長
さいたま市立病院眼科医長
駿河台日大病院眼科外来医長を経て、現在に至る。
現在、駿河台日大病院眼科兼任講師

しパンパンに張って固くなったボールのようなものです。

眼圧の正常範囲は、一般的に10〜21mmHgとされています。しかし、この眼圧の正常範囲は統計的な一つの目安で、視神経がどのくらいの眼圧に耐えられるのかは、個人差が大きく、年齢によって異なります。

以前は緑内障といえば、眼圧が高く、頭痛、嘔吐を起こす急性緑内障発作を思われがちですが、事実、正常範囲の緑内障（正常眼圧緑内障）が全緑内障の8割以上を占めています。緑内障と診断されて時点で眼圧を適正に下げれば、その後の視野障害は、加齢による視野障害と同程度に抑えられます。

適正な眼圧とは、患者さんの年齢、視野障害の程度、眼圧に対する視神経の強さにより異なります。

早期発見と適切な治療

緑内障の治療は、まず点眼薬を中心とする薬物治療が行なわれます。それ

でも眼圧が十分に下がらない場合や、視野障害が進む場合は、レーザー治療や手術が行なわれます。

高血圧や糖尿病などの慢性疾患と同様に自分の病気を理解し、治療を継続することが大切です。40歳以上の日本人の約20人に1人が緑内障であり、年齢とともに増加していることがわかっています。さらに、そのうちの9割が自分が緑内障と気付かず無治療です。1度狭くなった視野は回復することはできません。そのため、緑内障の治療目的は、緑内障がそれ以上進まないようにすることです。そのためには、早期発見、早期治療することが重要です。

40歳を過ぎたら眼科専門医による緑内障の定期検査を受け下さい。血縁者に緑内障の患者さんがいる方は、特に注意が必要です。

緑内障の危険因子

- 40歳以上
- 強い近視
- 糖尿病
- 片頭痛
- 冷え性
- 血縁者に緑内障の人がいる

監修：川久保眼科 院長 川久保洋

川久保眼科

眼科、日帰り白内障手術、オルソ・ケラトロジー（角膜矯正療法）、コンタクトレンズの処方



※JR京浜東北線浦和駅東口よりバス10分。「太田窪」バス停徒歩2分。

- 診療時間 午前 9:00～12:00 午後 14:00～18:00
- 休診日 日曜祝日、土曜午後、および第1・2金曜日午後

川久保眼科

〒336-0936 さいたま市緑区太田窪3-8-3-2F
TEL: 048-885-5422 FAX: 048-885-5422 kawakuboeye.webmedipr.jp